

ある電子製品の充電時間が **2.00** 時間と表示されている。この表示に問題がないかを調べるために、無作為に **16** 個の製品を抽出して、これらの充電時間を測定した結果、平均の充電時間は **2.12** 時間であった。この製品全体の充電時間は、正規分布 $N(\mu, \mathbf{0.04})$ に従うものとする。

このとき、「仮説 $H_0 : \mu = \mathbf{2.00}$ (時間)」を、

- 対立仮説 (1) 「 $H_1 : \mu \neq \mathbf{2.00}$ (時間)」として、または、
(2) 「 $H_1' : \mu > \mathbf{2.00}$ (時間)」として、それぞれ
有意水準 $\alpha = \mathbf{0.01}$ で検定せよ。

ヒント!

母分散 $\sigma^2 = \mathbf{0.04} = \frac{1}{25}$ は既知なので、検定統計量 $T = \frac{\bar{X} - \mu_0}{\sqrt{\frac{\sigma^2}{n}}}$ とおくと、

T は標準正規分布 $N(0, 1)$ に従う。よって、これから、(1) では両側検定を行い、(2) では右側検定を行えばいいんだね。

解答&解説

- (1) 正規分布 $N(\mu, \mathbf{0.04})$ に従う母集

σ^2

団から、 $n = \mathbf{16}$ 個の標本を無作為に抽出して、 $X = X_1, X_2, \dots, X_{16}$ としたとき、標本平均 \bar{X} は、

$$\bar{X} = \frac{1}{16} \sum_{k=1}^{16} X_k = \mathbf{2.12}$$
 (時間) であつた。標本平均 \bar{X} は、正規分布

$N(\mu, \frac{\mathbf{0.04}}{\mathbf{16}})$ に従うので、検定

$$T = \frac{\bar{X} - \mu_0}{\sqrt{\frac{\sigma^2}{n}}} = \frac{\bar{X} - \mathbf{2.00}}{\sqrt{\frac{\mathbf{0.04}}{\mathbf{16}}}}$$

$$= \frac{\bar{X} - \mathbf{2.00}}{\sqrt{\frac{1}{\mathbf{16} \times \mathbf{25}}}}$$

統計量 T を、

$$T = \frac{\bar{X} - \mu_0}{\sqrt{\frac{\sigma^2}{n}}} = \frac{\bar{X} - \mathbf{2.00}}{\sqrt{\frac{1}{\mathbf{16} \times \mathbf{25}}}} = \frac{\bar{X} - \mathbf{2.00}}{\frac{1}{\mathbf{20}}}$$
 より、

表 1

仮説 H_0	$\mu = \mathbf{2.00}$
対立仮説 H_1	$\mu \neq \mathbf{2.00}$ (両側検定)
有意水準 α	$\mathbf{0.01}$
標本数 n	$\mathbf{16}$
標本平均 \bar{X}	$\mathbf{2.12}$
母分散 σ^2	$\mathbf{0.04}$
検定統計量 T	$\mathbf{20}(\bar{X} - \mathbf{2.00})$
$u\left(\frac{\alpha}{2}\right)$	$\mathbf{2.58}$
棄却域 R	$\begin{array}{c} \xrightarrow{R} \quad \xrightarrow{R} \\ \xrightarrow{-2.58} \quad \xrightarrow{2.58} \end{array}$ $t = \mathbf{2.40}$
検定結果	仮説 H_0 は棄却されない

$T = 20(\bar{X} - 2)$ とおくと、 T は標準正規分布 $N(0, 1)$ に従う。

ここで、「仮説 $H_0: \mu = 2.00$ 」を

(対立仮説 $H_1: \mu \neq 2.00$) ← 両側検定

有意水準 $\alpha = 0.01$ で検定すると、

$u\left(\frac{\alpha}{2}\right) = u(0.005) = 2.58$ より、

棄却域 R は、

$T < -2.58$ または $2.58 < T$ となる。

$\bar{X} = 2.12$ より、 T の実現値 t は、

$t = 20(2.12 - 2) = 2.4$ となって、

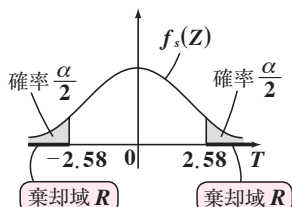
これは棄却域 R には入らない。

∴ 「仮説 $H_0: \mu = 2.00$ 」は棄却されない。

……………(答)

標準正規分布表 (P203)

z	……	0.08
⋮		⋮
2.5	……	0.00494
		$\frac{\alpha}{2}$
		0.005



(2) 次に、「仮説 $H_0: \mu = 2.00$ 」を

(対立仮説 $H_1: \mu > 2.00$)

右側検定

有意水準 $\alpha = 0.01$ で検定すると、

$u(\alpha)$

$= u(0.01)$

$= 2.33$ より、

棄却域 R は、

$2.33 < T$ となる。

$\bar{X} = 2.12$ より、 T の実現値 t は、

$t = 20 \cdot (2.12 - 2) = 2.4$ となっ

て、これは棄却域 R に入る。

∴ 「仮説 $H_0: \mu = 2.00$ 」は

棄却される。……………(答)

表 2

仮説 H_0	$\mu = 2.00$
対立仮説 H_1	$\mu > 2.00$ (右側検定)
有意水準 α	0.01
標本数 n	16
標本平均 \bar{X}	2.12
母分散 σ^2	0.04
検定統計量 T	$20(\bar{X} - 2.00)$
$u(\alpha)$	2.33
棄却域 R	$\xrightarrow[t=2.40]{R}$ $2.33 \rightarrow T$
検定結果	仮説 H_0 は棄却される

